

1. 2年次農場実習 I（前期・選択必修）・班別実習

履修者51名

回	日付	内 容	担当者	実施場所	部 門 等
1	4.18	オリエンテーション	吉野	岡山農場	教育研究部
2	4.25	牧場概要・牛の取扱い	河本	津高牧場	山地畜産
3	5. 2	ムギ類の形態と交配	吉野	岡山農場	クロッピングシステム
4	5. 9	草地の利用管理	岸田	津高牧場	山地畜産
5	5.16	花の栽培管理	後藤	岡山農場	野菜・花き
6	5.23	リンゴ・モモの摘果	福田	岡山農場	果樹
7	5.30	和牛の飼育・管理	河本	津高牧場	山地畜産
8	6. 6	野菜の栽培管理	吉田	岡山農場	野菜・花き
9	6.13	畑作物の栽培管理	黒田	岡山農場	クロッピングシステム
10	6.20	八浜農場見学	齊藤	八浜農場	汎用耕地
11	6.27	ブドウの摘粒・袋掛け	久保田	岡山農場	果樹
12	7. 4	果菜類の収穫	村上	岡山農場	野菜・花き
13	7.11	農業機械の構造と操作	難波	岡山農場	技術部
14	7.18	農業団体などの見学	小松	総社	教育研究部
15	7.25	まとめ・アンケート	岸田	岡山農場	教育研究部

班別実習A・Bの内容は以下の通りであった。

班別実習A班（野菜）担当：吉田・村上
班別実習B班（家禽）担当：岸田

班別実習A班（スイカ）

作物の栽培・成長過程を体験・観察させることを目的として成長速度の速いスイカを対象作物として取りあげた。履修学生それぞれに1株のスイカについて播種から定植・整枝・収穫までの管理を行わせた。

前年度（直播）とは異なり、事前には種・育苗した苗の定植からのスタートであったため、生育は比較的順調でほぼ全員の株から前期中に収穫が可能であった。履修学生は興味を持って取り組んでおり、熱意が感じられた。ただし、実習用以外に栽培されていたスイカはほとんどが接ぎ木苗であったため、実習用の株の生育がやや劣った。一部の学生からはこの点で不満が述べられたが、接ぎ木の重要性を理解させる上ではかえって有意義であったと考えられる。ただし、スイカの接ぎ木を実習として経験したいという意見が多くあったため、次年度に関しては実習用の栽培株とは別に接ぎ木を班別実習の項目として取り上げる予定である。

班別実習B班（家禽）

対象人数10名を大幅に上回る20名の学生が家禽班を希望したため、日曜日を除き毎日2回、午前8時頃と午後4時頃に2人1組で飼養管理を担当する体制とした。孵化直後のヒナから制限・不断給餌区を設定し、4月22日～7月1日にかけて、7日ごとの体重調査と外部形態の変化から成育相の違いを学ぶ内容とした。学生の記録した野帳にはヒナから成鳥までの変化が克明に記録されており、家禽類の飼養管理に対する興味の強さも伺われた。なお、希望者に対しアイガモの解体処理を実施した。そして、履修者全員でアイガモとアヒルの試食会を行い、命をいただくことの尊さを学習する格好の機会となった。なお、ティーチング・アシスタントによる指導も学生には好評であった。

2. 2年次農場実習Ⅱ（後期・選択必修）・班別実習

履修者：17名

回	日付	内 容	担当者	実施場所	部 門 等
1	10. 2	オリエンテーション	吉野	岡山農場	教育研究部
2	10.16	水稲収穫	齊藤	岡山農場	汎用耕地
3	10.23	花の栽培管理	後藤	岡山農場	野菜・花き
4	10.30	カキの収穫・脱渋	福田	岡山農場	果樹
5	11. 6	ムギ類の播種	吉野	岡山農場	クロッピングシステム
6	11.13	野菜の栽培管理	村上	岡山農場	野菜・花き
7	11.20	和牛の審査	河本	津高牧場	山地畜産
8	11.27	畑作物の収穫	吉野	岡山農場	クロッピングシステム
9	12. 4	サイレージ調製	岸田	津高牧場	山地畜産
10	12.11	農業団体などの見学	小松	総社	教育研究部
11	12.18	ロボットによる省力作業	門田	岡山農場	技術部
12	1.15	ブドウの剪定	久保田	岡山農場	果樹
13	1.22	作付計画	黒田	岡山農場	クロッピングシステム
14	1.29	まとめ・アンケート	吉野	岡山農場	教育研究部

班別実習A・Bの内容は以下の通りであった。

班別実習A班（野菜）担当：吉田・村上

班別実習B班（家禽）担当：岸田

班別実習A班（イチゴ・ホウレンソウ）

対象作物としては、ホウレンソウとイチゴを取りあげた。履修学生に一定面積の圃場を割り当て、ホウレンソウの播種から間引き・追肥・除草・収穫までの管理を行わせた。イチゴについては、生産用にガラス温室で栽培した株の定植・整枝・摘果・摘果等の管理作業について指導し、一連の生育過程の観察を行わせた。

ホウレンソウは一部ネキリムシによる食害を受けたが、病害の発生もなく、おおむね生育は順調であった。後期は10月からの開講であるため、生育期間の長いイチゴについては育苗や2月以降の栽培管理等まで実施することは不可能である。しかし、果実の収穫までは体験させることができ、一応の目的は達せられたと考えられる。

班別実習B班（地鶏）

実習Ⅱの履修者が前期よりも大幅に減少したため、家禽班を希望した学生は3名であった。今回はティーチング・アシスタントに対する予算もなく、支援体制の面から家禽班の班別実習を断念せざるをえない状況にあった。しかし、3名でも最後までやり遂げると言った履修学生の熱意に動かされ、実施に踏み切った。なお、日常の飼養管理に時間が取られないようにするため、後期は岡山県笠岡で改良された地鶏の2系統を導入し、月曜日から土曜日の午前8時頃に1人で飼養管理を担当する体制とした。今回は異なる飼育密度区を設定し、2000年10月23日～2001年1月29日にかけて、7日ごとの体重調査と外部形態の変化から成育相の違いを学ぶ内容とした。全員が鶏の解体処理を行った後に、試食会を実施した。少人数ながらも履修生は最後までやり遂げ、教育効果を高めることができた。

3. 3年次農場実習Ⅰ（前期）

履修者：46名

回	日付	内 容	担当者	実施場所	部 門 等
1	4.14	オリエンテーション	吉野	岡山農場	教育研究部
2	4.21	キクの挿し芽	後藤	岡山農場	野菜・花き
3	4.28	イチゴの収穫	吉田	岡山農場	野菜・花き
4	5.12	果菜類の定植	吉野	岡山農場	クロッピングシステム
5	5.19	和牛の飼育管理	河本	津高牧場	山地畜産
6	5.26	タマネギ収穫	村上	岡山農場	野菜・花き
7	6. 2	ブドウのジベレリン処理	久保田	岡山農場	果樹
8	6. 9	乾草調製	岸田	津高牧場	山地畜産
9	6.16	畜産農家などの見学	近藤	小林牧場	山地畜産
10	6.23	水稻移植	齊藤	岡山農場	汎用耕地
11	6.30	ブドウの摘粒・袋掛け	福田	岡山農場	果樹
12	7. 7	アイガモの水田放飼	岸田	岡山農場	山地畜産
13	7.14	作付計画	黒田	岡山農場	クロッピングシステム
14	7.21	果菜類の収穫	吉田	岡山農場	野菜・花き
15	7.28	モモの接ぎ木	久保田	岡山農場	果樹

4. 3年次農場実習Ⅱ（後期）

履修者：16名

回	日付	内 容	担当者	実施場所	部 門 等
1	10. 6	オリエンテーション	吉野	岡山農場	教育研究部
2	10.13	ムギ類の進化・播種	吉野	岡山農場	クロッピングシステム
3	10.20	カキの収穫・脱渋	福田	岡山農場	果樹
4	10.27	キクの摘蕾	後藤	岡山農場	野菜・花き
5	11.10	畑作収量調査	黒田	岡山農場	クロッピングシステム
6	11.17	タマネギの定植	村上	岡山農場	野菜・花き
7	12. 1	サトイモの収穫	吉野	岡山農場	クロッピングシステム
8	12. 8	稲藁収納・水稻の品種と栽培	齊藤	岡山農場	汎用耕地
9	12.15	野菜の収穫・残菜収納	後藤	岡山農場	野菜・花き
10	12.22	雑穀類の調製	吉野	岡山農場	クロッピングシステム
11	1.12	子牛の去勢	岸田	津高牧場	山地畜産
12	1.19	果樹の剪定	福田	岡山農場	果樹
13	1.26	牧場と草地の管理	岸田	津高牧場	山地畜産

5. 牧場実習

今年度は鳥取大学、島根大学ともに、本実習実施時期が集中講義の時期と重なったため、履修者が大幅に減った。今後はこのような事がない様に、各大

学間で連絡を密にして実施時期を決定するようすべきである。

平成12年度 牧場実習日程表

履修者：22名（岡山大学21名、鳥取大学1名）

	7月31日（月）	8月1日（火）		8月2日（水）		8月3日（木）		8月4日（金）	
6:00		起床		起床		起床		起床	
6:30		牧場管理 （岸田）	炊事	牧場管理 （岸田）	炊事	牧場管理 （岸田）	炊事	牧場管理 （西野）	炊事
7:00									
7:30		朝食		朝食		朝食		朝食	
8:00		清掃		清掃		清掃		清掃	
8:30		畜舎実習 （野久保・川畑）		畜舎実習 （野久保・川畑）		畜舎実習 （野久保・川畑）		畜舎実習 （野久保・川畑）	
9:00									
9:30		直腸検査の 基礎と応用 （奥田）		人工授精と 受精卵移植 の基礎 （舟橋）		和牛の衛生管理 （河本）		和牛の審査 （近藤・阿部）	
10:00									
10:30									
11:00									
11:30									
12:00		昼食		昼食		昼食		昼食	
12:30	集合 移動	休憩		休憩		休憩		休憩 清掃	
13:00									
13:30	諸注意 見学 （岸田）	飼料の貯蔵と利用		草地の管理		乳の加工と検査法 （宮本）		草地の土壌について （斎藤）	
14:00									
14:30	機械実習 （岸田・野久保・川畑）	（西野）		（岸田）		食肉の色調変化 （泉本）		家畜の種・品種と 遺伝的特性 （佐藤）	
15:00									
15:30									
16:00	畜舎実習 （野久保・川畑）	畜舎実習 （野久保・川畑）		畜舎実習 （野久保・川畑）		畜舎実習 （野久保・川畑）		移動・解散	
16:30									
17:00									
17:30	入浴	入浴		入浴		入浴			
18:00									
18:30	夕食 交流会・片付け	夕食		夕食		夕食			
19:00									
19:30	講義 牛の繁殖管理 （丹羽）	講義 反芻動物の栄養 （坂口）		講義 肉用牛の改良組織 （及川）		懇親会 片付け			
20:00									
20:30	入浴	入浴		入浴		入浴			
21:00	自由時間	自由時間		自由時間		自由時間			
21:30									
22:00	消灯	消灯		消灯		消灯			

6. 農地生産力開発学実習

<前後期 隔週 火曜日 3～5 時限>

履修者：15名

回	実 習 内 容	回	実 習 内 容
1	オリエンテーション	9	園芸作物の栽培管理 (3)
2	畑作物の栽培管理 (1)	10	園芸作物の栽培管理 (4)
3	畑作物の栽培管理 (2)	11	園芸作物の栽培管理 (5)
4	水稲の栽培管理 (1)	12	牧場管理 (1)
5	水稲の栽培管理 (2)	13	牧場管理 (2)
6	水田管理	14	和牛の管理
7	園芸作物の栽培管理 (1)	15	草地の管理
8	園芸作物の栽培管理 (2)		

7. 1 年次総合農業科学演習 (前期・必修)

履修者：120名

演習の一環として、応用植物機能学講座教官による「園芸栽培と園芸技術」の一部を、農場を利用して行った。

8. 教育学部栽培演習

<前期 金曜日 3 限 (12:40～14:10) >

履修者：9名

回	月 日	実 習 内 容	担当教官	実施場所
1	4月14日	オリエンテーション	久保田	岡山農場
2	21日	キクの挿し芽	後藤	〃
3	28日	イチゴの収穫	吉田	〃
4	5月12日	果菜類の定植	吉野	〃
5	19日	ブドウの新梢管理	久保田	〃
6	26日	タマネギの収穫	村上	〃
7	6月2日	ブドウのジベレリン処理	久保田	〃
8	16日	ビワの収穫	久保田	〃
9	23日	水稲移植	斎藤	〃
10	30日	ブドウの摘粒・袋掛け	福田	〃
11	7月7日	カキの摘果	久保田	〃
12	14日	作付け計画	黒田	〃
13	21日	果菜類の収穫	吉田	〃
14	28日	モモの接ぎ木	久保田	〃

9. 岡山大学教育学部附属養護学校「職場体験実習」

履修者：8名（内女子2名）および教官2名
平成12年10月4日－10月6日の間、3班に分けク
ロッピングシステム、果樹、野菜・花きの各部門で、

それぞれ技官の指導のもとで、無事に体験実習を修了した。

10. 環境理工学部環境管理工学科「環境管理工学実験Ⅰ」

対象学生：環境理工学部環境管理工学科3年次生
必修

曜日、時限：前期 火曜3. 4時限

担当教官：石黒宗秀

環境管理工学実験Ⅰは、環境を構成する要素として多様な機能を持つ土壌の基礎的物性特性を、現地調査及び室内実験によって把握する理論と方法を学ぶ授業である。田植え前の半日、農場水田の土壌断面を観察するとともに、作土層と耕盤層をサンプリングした。

サンプリング土壌を用いた実験：実験室に持ち帰った土壌試料を用いて、次の実験を前期授業期間中に行った。含水比・乾燥密度の測定、土粒子の密度試験、液性限界・塑性限界の試験、粒径分析試験、飽和透水係数試験、土壌水分特性曲線、土壌溶液の電気伝導度・pHの測定。

学生の取り組み状況：土に触れる経験が無い学生がほとんどで、新鮮な気持ちで楽しんでいただようである。